とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話③2554番
（毎旬5の日発行）　1カ月300円　1カ年業者の場合3,000円

水元町長が四期出馬を表明

道々問題はまとまる

本別町議会

本別町議会の第一回臨時会は二十五日午前十時十分からひらき、欠席は岳下一桜、佐野清の両議員の会期を一日として、はじめに水元町長から提出された、平成九年度から二カ年で完了する九億五千万円で本年度から二カ年で完了する

議案の説明があって議事に入り、議員報酬の改正案を上程したところで、天野晴議員の動議で協議会へうつすことになり、議員懇談で一時間二十分にわたって論議しましたが、昨年の四月にさかのぼっての報酬引き上げに作間勝雄、井出利一郎、野崎武の三議員が反対したために時間がかかったもので、本会議を再開して特別職などの報酬、給与は

議長　十五万円
副議長　十万四千円
委員長　九万三千円
議員　八万六千円
町長　五十二万円
助役　四十一万円
収入役　三十六万円
教育長　三十七万円

にそれぞれ引上げ、それにともなう一般会計予算の補正を質疑もなくいずれも原案どおりに議決したあと、鳥居鉄太郎議員から水元町長の政治理念についての緊急質問がおこなわれました。

鳥居氏　現在、町内で昨年末からボツボツ町長選へ向けていろいろな動きがあり、一部支持者のとりつけをおわった、あるいは後援会の発足をみた同僚議員もいる、三期十二年間、あなたが町政を担当して議会がすべて可意してきた、今回の町長選において皮肉ある町民はただ単なる勢力争い

は非常だといっている、水元町長は三期十二年で引退するのではないかと考えている方々もいるので、もう一度出馬すると声明して頂きたい

水元町長　みなさんのご支援によって三期十二年、任期は五月でおわるが、特段のご協力に感謝申しあげる、鳥居議員の質問について、町長に出るか出ないかは個人が決めるものではなく町民が決めるものであって、三期十二年はひとつの区切りで、年令的にもできればご遠慮の予定だったが昨年の暮いらい後援会のみなさん、町内の団体、組織機関が半年以上にわたりもう一回との要請をうけ、昨年末に至りさらに強くなり円期をやらざるを得なくなった、十二月に要請に応えて四度立候補を決意した、十二年間の実績に立ち、総

合十カ年計画はあと四年間で完了するので要請に応えて全力をふるって町政を担当したい

作間氏　自分の意志ではなく支持者の要望によるというが、おきましたいのは四年前に立会した過程（水元、賀陽、作間、安久津、野崎、多田氏の六者会談で水元氏が四期出馬はしないと言明したこと）により故に立候補者が出るのは止むを得ないと認めるか

水元町長　町長も議員もやはり町民の総意で決めるべきで個人的問題で決めるべきでない、どなたが立候補しようがとやかく申しあげない、町民のみなさんが決定してくれる

天野氏　ルールはけずれるかもしれないが、町長の心境をきいて話だ勝手だが年長であり、四十一年に町政の大展弘のなかで町民の要望に応えて立起され町政を担当され、十二年間の功績は町はかつて再建団体に転落したが二億円からの財政調整金を貯えるに至った、職員を才一に留意され後輩と予想されるので、水元町政の総仕上げをされるよう激励を申しあげる

などの発言があって、正午すぎに閉会しました。

超党派で井出氏を

本別町の「町民の声を広める会」の結成大会は一月二日午後一時三十分から浦村会館二階大ホールでひらきました。

この日は今冬に入ってはじめての大雪、大吹雪で農村地帯は自動車も通らないというのに、開会前にすでに三百名近い会員がつめかけ、その熱気と参会者がふえて結成会の盛況ぶりでした。

大会は高橋邦雄氏の司会で、使節人代表の安久津清人氏のあいさつがあって、議長団に浦村八重三、石上十一、木下とらえ三氏が推されて議事に入りました

まず経過報告のなかで安久津氏は

四十九年に「町を育てる会」が設立され、井出さんが推薦されて（町長候補に）なぜおりたのか、井出利一郎氏のご両親がなくなり、さらにまた本別沢の奥田が命日少の重態で、一家にとっては悲痛のドン底にあり、親の病に涙している同志をみて私は身のかきむしられる思いがした、そのとき実は賀陽さんの方から作間さん、私、野崎さん、合板の多田さん、こういう人達に水元さんから呼び出しがあった、これは賀陽さんからか水元さんからかわからないが、ロビンスで重要な会談があるからきてくれというのであったった、そのとき水元町長は五分ほどおくれて入ってきて「いやあお待せしました」といって私の隣りに坐ると同時に「自分の政治信条としては町長というものは十年、十二年やれば精一杯で、それ以上やるものでない太田もそうでまして私の年令と健康を合せて考えた場合、私はこれ一期でやめますからよろしくお願いします」と話に手をついて丁重なあいさつがあった、これは天地神明に誓っての事実で、話に手をついてお期かぎりでやめますと約束したので、心のなかで井田さんはいまこういう時期だから安心して子としての道をふみよいと思った、こういうことで「町を育てる会」は流れたというか、そういう形で四十九年はおわったが、その後の本別町政はみるにたえない、この町長がウソをいうわけはなかろうとかたく信じている、いまウワサがある所あれはウワサだと思っている、町長がウソをつけば本別町の教育はどうなる、つぎの町長はどういう人を選ぶべきかを考えた場合どうも町長選のシキイが高い、庶民と話しあえる町長さんがほしい、それに加えて町長職に尊敬するために公宅

を建てて三百何十万円もする車を買って高い給料の職員に運転させて行き帰りするのでなく、町長公宅にいてみなさんいつでもいらっしゃい、と気楽に話しあえる町長であるべきで、それには町民党でいかねばならない、超党派で各界、各層の方々と話し合い、彼の「町を育てる会」は自民党員いともいわれた、いろいろな政党の青々の意見をとり入れて「町民の声を広める会」とした

との説明があって、会の趣意書、運動目標、会則などを審議、決定して各地域からの選考委員によって

会長　野崎武
副会長　江見幸作
　　浦村八重三
同　　鶴島弘
同　　木下とらえ
同　　円田三男
同　　加藤信男
幹事長　中川義雄

の各氏を推薦し承認となりました。

役員を代表してあいさつに立った野崎会長は「超党派の会の会長に推されたは上は自民党支部長を辞任して公平な立場で全力投球であたりたい」との決意を示しました。

ついで町長選対策にうつるや会場からいっせいに町長候補には井出利一郎氏をとの推薦があり、満場一致でこれを決定しました。

ここで満場の拍手に応えて井出氏が登壇して

本日結成された「町民の声を広める会」の大会において町長候補としてご推薦を頂きその責任の重大さを痛感しております、本日再度ご推薦をうけたは上はいかなることがあろうとも前回のナマをふまぬ思い決意でおり、町議三期十二年、商工会長二期八年、自民党支部長四期八年のご支援、ご協力を頂いたが、町長選挙については「イデオロギー」を抜きにして町民党的立場ですっ経になって出馬する決意であり、基本的な考え方は

一、農林業を育成して商工業、農商業、林業の振興をはかる
二、就職者の就職難、あるいはへき地離農問題など公的機関の就職斡旋を阻止する（商工会長の立場で昨年暮の三日間、本名代議士のはからいで林野庁の国際長官、秋山農業部長に陳情、陳情した結果、本別営林署は廃止しない存置するとの確約を頂いた）
三、農林対策を強力にすすめ、自動車高速道路の新設とリンクション、インターチェンジの設置をはかり、大企業の誘致を可能にする
四、商工業、特に小規模企業の振興をはかるため大型店進出防止の町条例を制定する
五、かつて私どもが運動をして分譲した農業講習所を道立農業大学校に昇格して頂いた道内ただひとつの大学校との経済、文化の交流をはかり、近代的農業技術者の育成の場として町をあげて協力していく

と述べたあと「以上はスローガンの一部を申しあげたが、くわしくは趣意書の運動目標に書いてあり、私のモットーとするところは町民だれでも気がるに陳情、進言のできる対話の行政と市のかよったあたたかい行政の実現であります」と新人として立起表明のあいさつがあり、このあと大会決議と岡崎克治氏の発声で会と井出氏の万才三唱があって午

後三時三十五分に閉会しました。

技術に生きる人
ビクター
テレビ
ラジオ
レコード
ステレオ
有限会社
ミネ・デンキ
足寄町三笠通り　T5－2642
ーあらゆる電気器具ー

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　T五－二二二一番

冬物衣料を各産地から
沢山仕入れてきました
ただいま陳列を完了しまして
皆様の御用命をお待ちしております
株式会社　前田呉服店
足寄町駅前商店街　T五－二〇二二

林業機械
造林用具
電動工具
有限会社　鈴木鋸刃物店
本社足寄町大通り　T　五－二三〇七
営業所本別町南二丁目T二－四九二三
訪問販売量　造林用：ニチエンソー各種
農林用、除雪用刈払機各種
各種大量入荷
マキタ　日立　東和　電動工具長運斉益老労物代理店
（機械の修理は故実本位の当社へ）

住宅産業に奉仕する店
新築改築のときはご相談下さい
家具　建材　サッシ　住宅設備機械
有限会社　桜井家具建具店
足寄町本通り南三丁目　T五－二三六二
アコーデオンカーテン　サッシ網戸
各種ご注文承ります
注文建具　注文サッシ　製作部
足寄町西五区　T五－三三一五